

ぎわすといったキャラクターだけに影響を受けているのではない。とくにピエレッテについてはどこかヨーロッパ的なおしゃれな雰囲気を持つものも多い。

これまで、我々は、オールド・ノリタケのピエロに関して、どう呼ぶべきなのか、どういった背景がそこにあるのか、そういったことに対してあまり気にしてこなかったように思う。しかし、どのようなピエロを好むかは個人の嗜好であるにしても、それがどういった背景から生まれたかを知ることによってよいよその魅力は増すに違いない。ピエロを手に入れたなら、次にピエレッテを手に入れて対

として考えるのも一考である。また、ダイヤ柄の服装からアルレッキーノの特徴を兼ね備えたピエロであると考えすることでその価値も増すかもしれない。

オールド・ノリタケのピエロとピエレッテは、シリアスでな表情のヨーロッパのアルレッキーノやピエロのフィギュアとも違い、サーカスやカーニバルで愛されたアメリカのピエロのひょうきんなキャラクターとも違う。オールド・ノリタケのピエロとピエレッテの魅力は、そのルーツであるイタリアの雰囲気を残しつつ、アメリカ人の嗜好を反映し、日本人の感性で洗練された像として作り上げられたところにあるといえよう。

参考文献

- アラダイス・ニコル著 浜名恵美訳 『ハーレクインの世界』 岩波書店 1989年
 木村一彦 『オールドノリタケ——アールデコ・ボンチャイナ』 トンボ出版 2001年
 ヴェロネージ、ジウリア著、西澤信彌訳 『アール・デコ <1925年様式の勝利と没落>』 美術出版社 1975年
 『ノリタケ100年史』 株式会社ノリタケカンパニーリミテド 2005年
 ヒリアー、ベヴィス 西澤信弥訳 『アール・デコ』 Parco出版 1986年
 ブルユナメル、イボンヌ 西澤信弥訳 『1925年様式/アールデコの世界』 岩崎美術社 1987年
 橋田正信 『マイセン磁器』 平凡社 2002年
 森川崇洋 『華麗なるオールドノリタケの世界——オールドノリタケ名鑑』 マリア書房 2003年
 ローゼンフェルド、アラ 福地大輔訳
 『コメディア・デラルテ、カーニバル、キャバレー』
 『舞台芸術の世界—ディアギレフのロシア・バレエと舞台デザイン』 展図録 2007年

*今回の執筆にあたり、サヨ&シェルドン・ハーメリングコレクションと森川コレクションの写真を掲載させていただきました。心から御礼を申し上げます。

広告募集

問い合わせ先：日本ポーセリン協会
 Tel: 052-324-4700